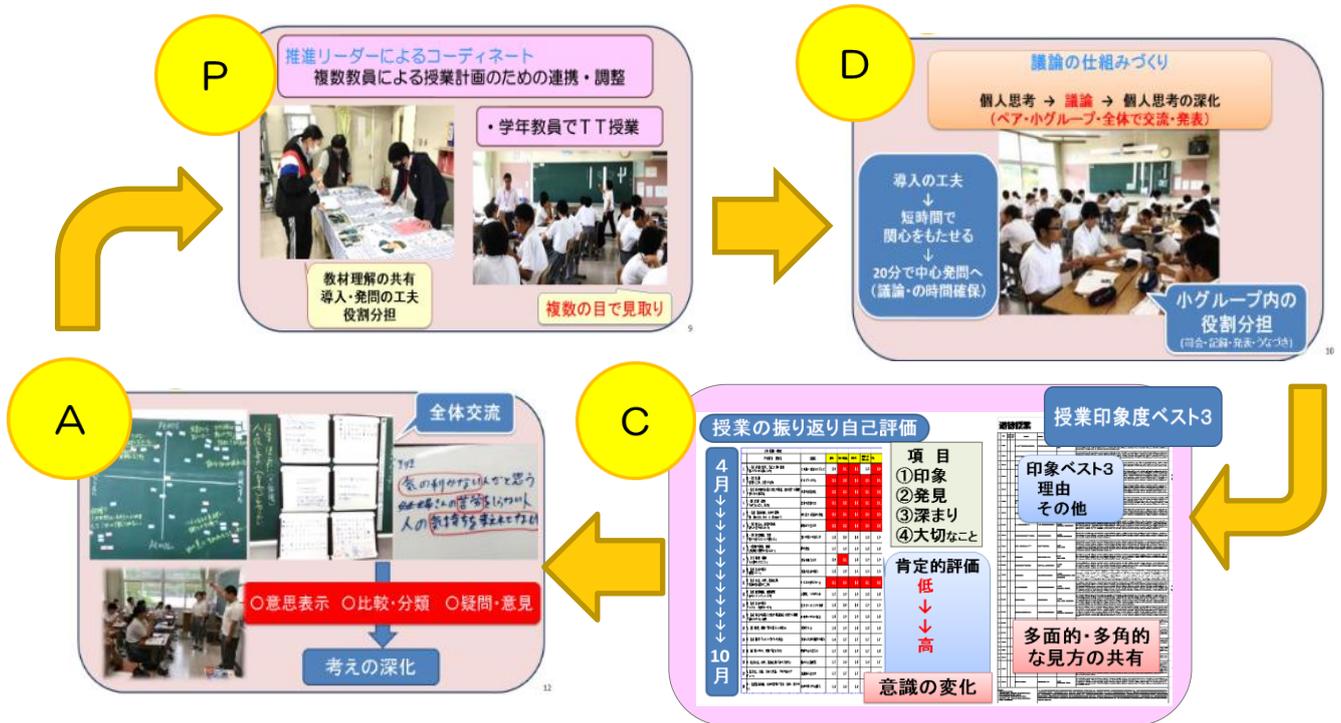


# ● 指導計画

## 授業改善のための「PDCAサイクル」の確立



### 道徳科の授業例

- 学年 第1学年
- 主題名 失敗から学んだ希望 内容項目 A-(4)希望と勇氣, 克己と強い意志
- ねらい 主人公の「ぜったいに諦めない」という気持ちの源を考えるを通して, 困難や失敗があっても諦めず希望と勇氣をもち続け, より高い目標の実現に向かってやり抜こうとする道徳的実践意欲と態度を養う。
- 教材名 「小惑星探査機『はやぶさ』の挑戦

☆カリキュラム・マネジメントに係るポイント

	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 失敗の体験について想起する。	○失敗した経験はないか。	○世界的ニュースに関心をもたせる。
展開	2 小惑星探査機「はやぶさ」の計画について知る。	○「はやぶさ」からの信号が途絶えたとき, 川口さんはどんなことを考えただろう。 補助発問 ○この後川口さんはどうしましたか。 ◎川口さんの「ぜったいに諦めない」という気持ちはどこから生まれてきたのだろう。	☆理科の授業内容[天体]と関連させる。 ☆「12月6日予定のニュース」(はやぶさⅡの帰還)の活用
	3 教材「小惑星探査機『はやぶさ』の挑戦」を読み, 考える。		○川口さんの過去の失敗の悔しさに注目させる。 ○科学者として取り組んだ内容を説明する。
	4 「はやぶさ」からの信号が途絶えたときの川口さんの思いを考える。		☆理科の専門性を生かした教材開発 科学は99%の失敗から1%の成功が導かれている。(諦める=失敗)
展開	5 川口さんの決して諦めなかった気持ちについて考える。	○「かつての失敗をばねにする」という生き方について, 考えてみよう。	○失敗から学べることを理解させる。 ○個々に感じたことや思いを共感的に交流させることで多面的・多角的に捉えさせる。 ☆失敗の経験から希望や強い意志が生まれることに気づくような発言や記述がある。
	6 「失敗をバネにする」生き方について考える。	○科学が発展してきた経緯から, はやぶさⅡの帰還があることを知らせる。	☆振り返りをもとに生徒の意識の変化を見とり, 授業スタイルの構築に繋げる。
総末	7 教師の説話を聞く。	☆理科の専門性を生かした教材開発 目標達成に向け, 失敗を繰り返さないために諦めずに工夫すること, 見通しをもって観察, 実験を行うこと, 科学的に探究することで, 科学が発展してきたことを解説する。	